

1. はじめに

令和5年度から休日の運動部活動の地域移行が進んでいくという流れは多くの教師が承知の通りであるが、その達成に向けた具体策や今後の方向性についての理解はあまり進んでいないのが現状ではないだろうか。現在文部科学省では、運動部活動の地域移行に関する検討会議が重ねられており、検討会議にて提言がまとめられた。そこでは、令和5年度からの実施に向けて各観点から現状と課題、今後の方向性が示されている。今回はその提言について取り上げ、要点を示すこととする。また、部活動の地域移行に向けた熊本県における先行実施の事例についても取り上げることで、今後のイメージの共有化を図ることとする。

2. 運動部活動の地域移行に関する検討会議で示された提言について

運動部活動の地域移行に関する検討会議（第6回）では、①「新たなスポーツ環境」の在り方やその充実方策、②「スポーツ団体等」の整備や支援、③「スポーツ指導者」の質・量の確保方策、④「スポーツ施設」の確保方策、⑤「大会」の在り方、⑥「会費」や「保険」の在り方、⑦「学習指導要領など関連諸制度等」の在り方、および達成時期などについて検討を行い、提言を取りまとめている。それぞれの現状と課題、今後の対応について詳しく示されており、輪郭がはっきりしてきた印象である。

例えば、地域移行の達成時期については、3年後の令和7年度末を目途とし、ガイドラインの改訂、推進計画を策定するよう方向性が示された。また、地域スポーツ団体なども参加できる大会開催を推進することから、今後の中体連大会の在り方も変化していくことを明言している。費用面については、各地方自治体においてスポーツに関わる費用の補助や、地元企業からの寄付などによる基金の創設などの取り組みを通して、経済的に困窮する家庭における生徒のスポーツ活動の支援を行っていくことなどが示された。中学校学習指導要領の次期改訂における見直し、引いては高校入試の在り方についても今後の方向性が明記されることとなった。こうした提言をもとに、引き続き検討会議を重ね、より具体的な取り組みが進められていくこととなる。

3. 提言を受けて

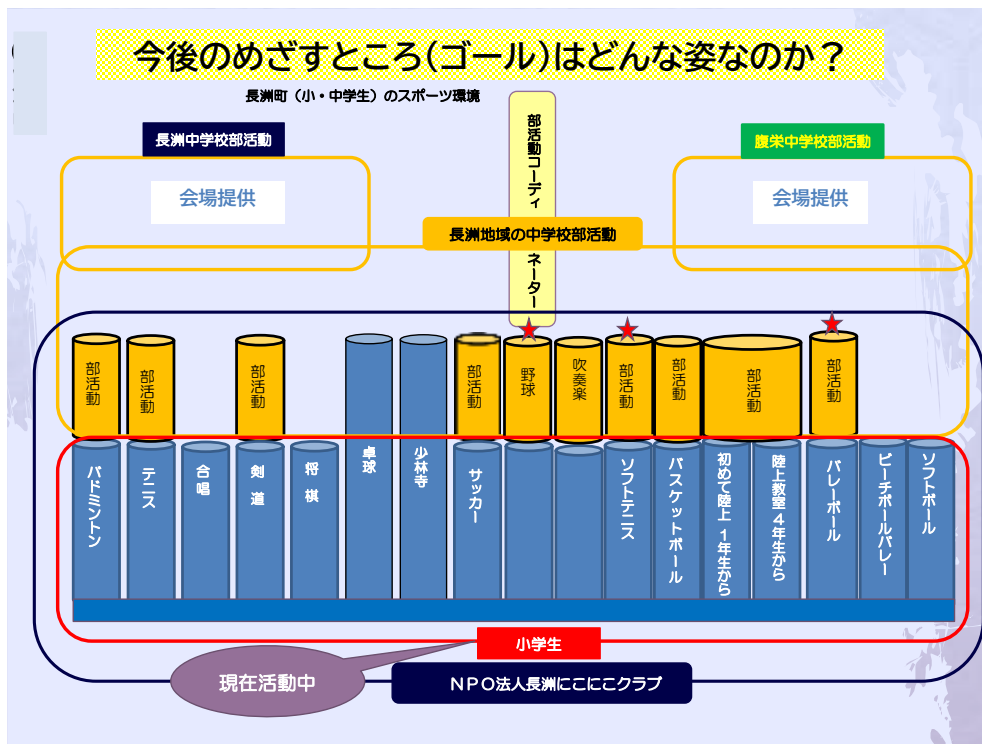
今回の提言を通して、大枠で今後の方向性が見えてきた。しかしこの検討会議で特に強調されたことは、様々な事情を抱える学校現場や地域に、部活動移行の推進のための「選択肢」を示し、複雑に絡み合う諸課題を解決していくために「複数の道筋」があることや、「多様な方法」があることについてである。つまり、最終的には国が示す意向に則って、それぞれの自治体に応じた具体的な取り組みを進めていかなければならない。そこには、地域と学校、そして保護者との協働的な取り組みが必要とされる。そのために現場で働く教師が、しっかり現状と課題を分析し、よりよい方向に進むために地域移行をどう捉え、どう働きかけしていくかという主体的な姿勢が重要となるだろう。それは働き方改革の視点と同時に、目の前の子どもたちの生涯スポーツに向けた継続的かつ多様なスポーツとの関わり方を深める手段としてこの地域移行を捉え、「子どもたちの笑顔が増え、成長につながるためには」という視点を中核に取り組んでいくことの重要性が問われているものだと考える。

部活動の地域移行の流れは、待ったなしの状況である。過渡期の現在、大きなうねりのなかで現実味を帯びていくほどに、様々な課題も浮き彫りとなってくるだろうと予想される。決して受け身の姿勢ではなく、この改革の中核にいる立場として教師の生の声をもって参画し、この変革の真っ只中を駆け抜け、新たな価値観の創造に寄与していくことが必要であると考える。

4. 熊本県における先行実施の事例を通して（熊本県長洲町教育委員会 成果報告より）

現在、熊本県でもいくつかの自治体が先行実施としての取り組みを進めている。そこで出た成果や課題を共有し、今後各自治体でそれぞれの諸課題に応じて取り組みが進められていくこととなる。今回は、長洲町教育委員会の事例を参照し、今後の地域移行のイメージの共有化を図ることとする。

図 1. イメージ図



(図1) イメージ図の通り、小学生のプログラムとリンクできるように中学部のプログラムも位置づけ、中学校の部活動として活動する。にこにこクラブの会員として年間会費を払い、クラブのプログラムに参加する。指導者においても、にこにこクラブ会員として地域の部活動指導に関わっていくスタイルをとる。学校はこれまで通り施設の提供と生徒との関係をつないでいく。にこにこクラブは運営主体としてつなぎの一翼を担い、「部活動コーディネーター」としての担当を位置づけて業務に当たる。最終的には中学校から完全に地域移行し、多種目・多志向・多世代の従来の総合型クラブのスタイルをめざす。生徒全員が、にこにこクラブの会員として所属し、好きなプログラムに参加し、「する」だけではなく、「支える」「つくる・はぐくむ」の関わりもできるようにと考えている。にこにこクラブが充実し地域のコミュニティとして地域スポーツ環境が豊かになるように、さらなる発展のチャンスとして捉え、行政とのパートナーをしっかりとっていくこととする。

5. まとめ

運動部活動の在り方の抜本的な改革を進めるこのチャンスに、スポーツ庁や JSP0 や各競技団体、中体連、スポーツ団体、企業や大学等の幅広い関係者の協力を得て、地域移行が進められる。しかしその中核にいるのは、目の前の子どもを預かるこの学校現場であり、教師である。我々がこの流れを客観的な立場から眺めるだけでなく、主体的に関わり、より良い方向へ進めるために声を挙げていくことが、この過渡期を過ごす学校現場としての大きな役割であると再確認する機会となった。